

補強土（テールアルメ）壁工法  
目視点検及び点検報告書作成業務

点 検 報 告 書

〇〇〇〇

〇〇〇 〇号補強土壁

〇年〇月

JFE 商事テールワン株式会社

## 目次

1. 業務概要	2
2. 点検概要	4
2.1 点検対象	4
2.2 点検手順	5
3. 目視点検	6
3.1 概要	6
3.2 点検の記録	7
4. 点検結果	7
4.1 確認された変状	7
4.1.1 ○○	7
4.1.2 ○○	7
5. 総括	8
【参考】変状確認時のサンプル	9
【別紙】補強土壁点検台帳	

### 1. 業務概要

(1) 業務目的

本業務は、〇〇（〇〇県〇〇）に位置する補強土（テールアルメ）壁（以下、テールアルメ壁と記す）において、近接目視を基本とした目視点検を実施し、構造物の維持管理の基礎資料とする事を目的とする。

(2) 業務名称

補強土（テールアルメ）壁工法目視点検及び点検報告書作成業務

(3) 発注者

〇〇

(4) 業務期間

〇〇〇〇年〇〇月〇日～〇〇〇〇年〇〇月〇日（〇〇日間）

(5) 業務の対象となる現場および業務内容

業務の対象となる現場（以下、業務対象現場と記す）および業務内容は以下の通りである。また表-1 に業務内容および数量の一覧を示す。

【業務対象現場および業務内容】

① 〇〇

業務内容：目視点検，目視点検，点検調書作成，報告書作成

表-1 業務内容および業務数量

業務対象現場 業務項目	①	②	③	④	業務数合計 (有 合計)
	〇〇号線 〇〇地区	〇〇号線 〇〇地区	〇〇号線 〇〇地区	〇〇号線 〇〇地区	
1) 目視点検	有				〇箇所
2) 点検調書作成	有				〇箇所
3) 報告書作成	有				1式

(6) 業務実施機関

調査機関：JFE 商事テールワン株式会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町 2-7-1

TEL 03-5203-6271 FAX 03-5203-6277

表-2 業務担当者一覧表

業務従事者	所属	資格 [部門]	連絡先
〇〇 〇〇	JFE 商事テールワン株式会社		[TEL] 03-5203-XXXX [MAIL] <a href="mailto:xxxxx@terre-1.co.jp">xxxxx@terre-1.co.jp</a>
〇〇 〇〇	〇〇 〇〇		[TEL] 03-5203-XXXX [MAIL] <a href="mailto:xxxxx@terre-1.co.jp">xxxxx@terre-1.co.jp</a>

調査責任者：〇〇 〇〇 (所属：JFE 商事テールワン株式会社)

調査管理者：〇〇 〇〇 (所属：JFE 商事テールワン株式会社)

調査担当者：〇〇 〇〇 (所属：)

照査責任者：〇〇 〇〇 (所属：)

## 2. 点検概要

### 2.1 点検対象

業務対象の概要一覧を表-3 に示す。また，調査対象現場の位置を図-1 に示す。

表-3 業務対象現場概要の一覧

点検対象現場名	〇〇 〇〇号補強土壁
所在地	〇〇県〇〇〇〇
工法	テールアルメ工法
施工年月	〇〇年〇月
最高壁高	〇〇m
壁延長	〇〇m
壁面積	〇〇m <sup>2</sup>
盛土材料	現地発生土

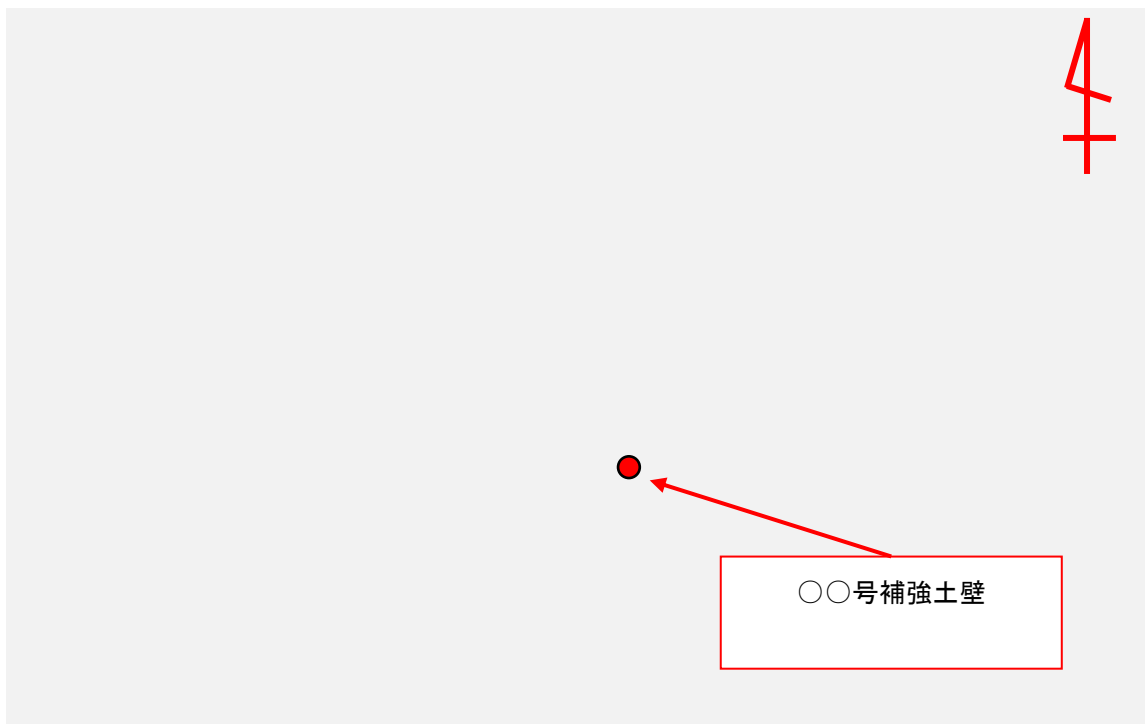


図-1 対象現場位置 (地図：国土地理院 電子国土より引用編集)

## 2.2 点検手順

構造物の維持管理の基礎資料とする事を目的とした点検・調査は、図-2に示す点検フローに沿って実施した。点検方法の詳細については、調査項目ごとに後述する。

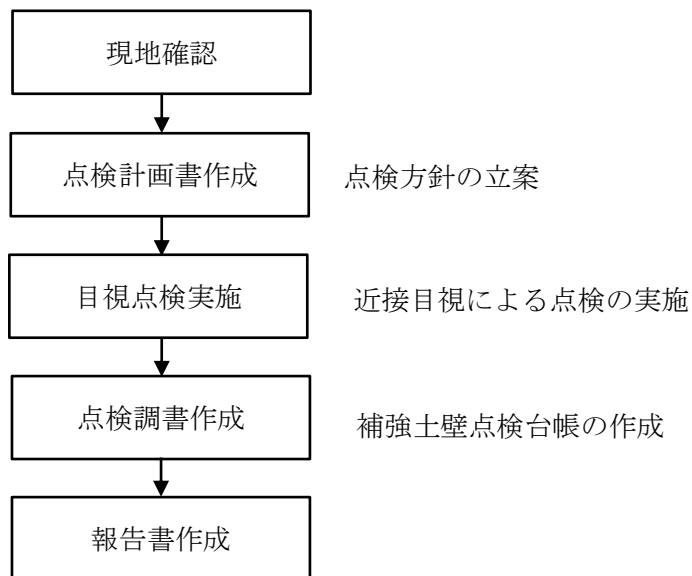


図-2 調査手順

本業務は、近接目視を基本とした目視点検によりテールアルメ壁の壁面状態の確認と周辺状況の確認を実施し、変状の有無を確認する。万一、変状が確認されたものについては変状度合いと緊急性の確認を行う。近接目視による点検結果に基づいて、供用期間中における補強土壁としての機能保全に関する基礎資料をとりまとめ報告するものとする。

### 3. 目視点検

#### 3.1 概要

本点検は近接目視を基本としテールアルメ壁及び周辺に何らかの異常が無いかを確認した。補強土壁の近接目視における着目点は、平成26年～27年度に産官学14団体が参画して実施した「補強土壁の維持管理手法の開発に関する共同研究」で取り纏められており、本点検においても同様の着目点とし、点検項目を確認する。確認する点検項目の概要を図-3に、点検項目を表-4に示す。

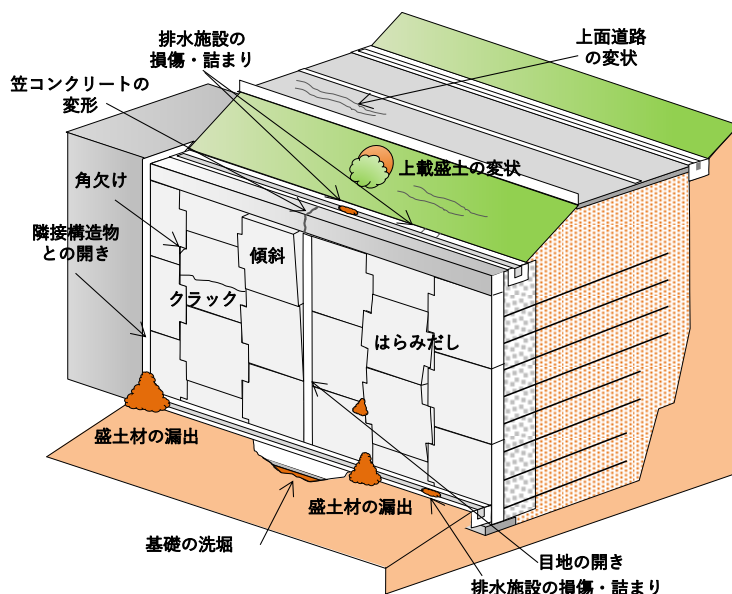


図-3 テールアルメ壁の点検項目（変状の状態イメージ）

表-4 点検項目一覧<sup>4)</sup>

点検項目							
壁面	はらみ・折れ	笠コンクリート	目地開き・ずれ	基礎	クラック		
	傾斜		変色・錆汁		目地開き・ずれ		
	漏水跡		小崩壊		基礎地盤	洗掘	
壁面材	脱落	嵩上げ盛土	浸食	防護柵 基礎 (参考)	沈下		
	変形・損傷		沈下		すべり		
	角かけ・クラック		クラック		傾斜・転倒		
	剥離		スレーキング		クラック		
	目地開き・ずれ		高含水比		ずれ		
	変色・錆汁		排水施設		詰まり	上面道路 (参考)	クラック
	植生異常				損傷・クラック		沈下・陥没
漏出(痕)	洗掘	段差					
盛土材	沈下	基礎	洗掘	隣接構造 物境界 (参考)	異常振動		
	吸出し		沈下		開き		
	傾斜		滑動		損傷		
笠コンクリート	クラック		転倒		変形(端部調整材)		

### 3.2 点検の記録

現地での近接目視による点検結果は、前述した共同研究によって提案されている「補強土壁点検台帳（表-5）」を用い、確認された変状や損傷の状況を記録した。





## 4. 点検結果

### 4.1 確認された変状

当該現場において、点検時の確認項目（表-4）に該当した変状は以下の通りである。  
詳細は「別紙 補強土壁点検台帳」に示す。

#### 【確認された変状】

- ・○○
- ・○○

上記以外の変状は確認されなかった。以下に、確認された変状の所見を記す。

#### 4.1.1 ○○

○○の発生位置を図-4に、状況を写真-1及び写真-2にそれぞれ示す。  
(変状の概要、および、見解の記述)

#### 4.1.2 ○○

壁前面排水溝の詰まりの発生位置を図-5に、状況を写真-3及び写真-4にそれぞれ示す。  
(変状の概要、および、見解の記述)

## 5. 総括

近接目視を基本とした点検を実施し、周辺に何らかの異常が無いかを確認した。点検時の確認事項において「有り」とチェックした項目としては、「〇〇」および「〇〇」であった。

(見解の記述)

**【参考】変状確認時のサンプル**

本現場において、変状は確認されず。補強土壁の状態は目視において良好であると判断されましたが、目視点検において著しい変状や損傷が確認された場合は変状の動態観測、動態観測にて進行性の変状と確認された場合の詳細調査および応急措置等の提案を致します。参表-1 に提案の一覧（サンプル）を示します。

参表-1 動態観測，詳細調査および応急措置の提案一覧（サンプル）

現場名	補強土壁	動態観測の要否および位置		変位進行時の調査	その他
		補強土壁	上部構造物		
〇〇	①	壁面変位 壁面角欠け 笠コン目地	-	引抜き試験 盛土物性試験	笠コン目地 開口部補修
	②	壁面変位	-		
〇〇	①	壁面のずれ 沈下 壁面変位	防護柵基礎変位	引抜き試験 盛土物性試験 ボーリング調査	・上部構造部との 開口部補修 ・壁面材の クラック補修
	②	-	-		-
〇〇	①	-	防護柵基礎変位	盛土物性試験	防護柵基礎 目地詰め
	②				植生伐採
〇〇		-	防護柵基礎変位	盛土物性試験	上部舗装補修